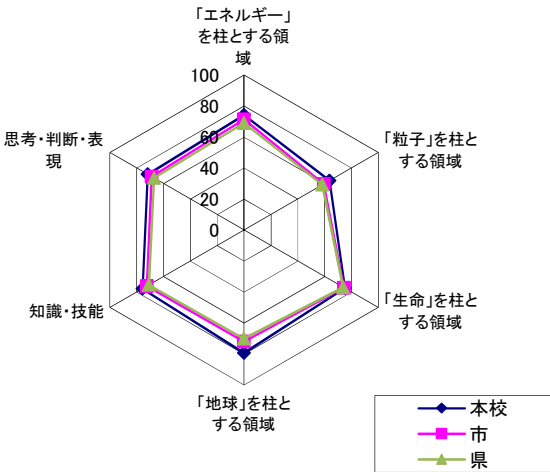


宇都宮市立瑞穂台小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.2	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	63.6	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	75.1	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	79.3	72.0	70.1
観点	知識・技能	75.6	72.5	70.9
	思考・判断・表現	71.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市平均を上回る(+2.8ポイント)。 ○「光のせいしつ」や「じしゃくのふしぎ」の内容はよく理解しており正答率が特に高い。 ●「風とゴムの力のはたらき」の内容では、輪ゴムの数と車が動く距離の関係について答える選択問題の正答率が低い。	・実体験を十分にさせた上で、実験の目的や方法を正しく理解させ、実験の条件を踏まえた結果を正しく記録させるようにする。また、実験を行う際には目的を明確にする。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市平均を上回る(+4.3ポイント)。 ○「ものと重さ」では、重さを揃えると材質によって体積が異なるという基礎的な知識を問う設問の正答率が高い。 ●体積を同じにした時のものの重さの違いについて記述する問題の正答率が低い。	・実験結果から考察したり、学んだことを生かしたりするために、日常生活と結び付けて授業を展開する。また、その際には理由を合わせて考えさせることで、学んだことを日常に結び付ける力や思考力の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	正答率は市平均と同程度である(+0.6ポイント)。 ○「植物の育ちとつくり」や「こん虫のかんさつ」では、観察から分かったことを記述する問題の正答率が高い。 ●クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモがこん虫であるか判断する問題の正答率が低い。	・虫や植物の体のつくりを観察する学習では、実際に観察する活動をできるだけ多く取り入れるようにする。また、観察後には知識の整理やまとめを確実にを行うことで基礎・基本の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	正答率は市平均を大きく上回る(+7.3ポイント)。 ○「かけと太陽」では、太陽と日陰の位置の関係と、できた影の位置を関連付けて考える設問の正答率は、市平均より高い。 ○全ての設問で市の平均を上回った。	・引き続き、太陽の動きや影のでき方などの自然の事象について、方位を意識させながら進んで調べようとする態度を育てる。また、その際には、実験用具の扱い方や太陽に関する基本的知識を確実に指導する。